番組審議会開催に関する報告

２０２１年5月１３日

総務大臣　殿

申告者　住　所　　豊橋市小畷町５９６番地
氏　名　　株式会社エフエム豊橋
代表者　　代表取締役 山本　鉄秀

当社の第１４９回の番組審議会をリモート形式にて実施。２０２１年４月２７日に審議委員へ審議番組をデータ送信し、意見を返信していただきました。意見をまとめ議事録を作成いたしましたので、添えてお届けします。

第１４９回

エフエム豊橋　番組審議会　議事録

２０２１年４月２７日（火）　データ配信
２０２１年５月１０日（月）　提出締切日

株式会社エフエム豊橋

１．実施日時：２０２１年４月２７日（火）　審議番組データを審議委員に電子送付
　　２０２１年５月１０日（月）　審議番組に関する意見提出締切

２．開催場所：株式会社エフエム豊橋　事務所よりリモート形式にて開催

３．委員の出席　委員の総数　８名
　　出席委員数　７名

提出委員	村松　史子	㈱オフィスサポートセンター取締役会長・保護司）
	酒井　洋行	（豊橋市広報広聴課課長補佐 豊橋市副市長・杉浦康夫代理）
	伊藤　嘉邦	（豊橋文化振興財団常務理事）
	松崎　正尚	（豊橋市議会副議長）
	松井　孝悦	（豊橋農業協同組合総務部長）
	吉田　典子	（愛知県消費者協会東三河支部長 特定非営利活動法人ビリーブ理事）
	小林　和夫	（豊橋商工会議所専務理事）
欠席委員	本田　佑輔	（豊橋青年会議所渉外理事）
エフエム豊橋	山本　鉄秀	（代表取締役社長）
	小川　統也	（取締役局長）
	竹内　宏和	（取締役営業部長）
	渡辺　欣生	（取締役制作部長）

４．議題　審議事項
審議番組：番組名　／東日本大震災から 10 年
やしの実から届ける～東北の風
放送日時／2021 年 3 月 11 日(木)　13：00～15：00
放送内容／仙台市出身のパーソナリティ前川緑が震災直後から担当してきた「閖上・亘理・山元から届く～東北の風」、震災から 10 周年の節目で企画。現地でのインタビューをはじめ、10 年の歴史と未来へ向けて、被災地が地元である前川が伝えた特別番組。
ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ／前川緑

５．議事録の概要
各審議委員に審議番組データを電子送付。各々で聴取していただき、電子メールにて返信された意見を集約。審議委員長の確認をいただき、議事録とする。

６．審議の内容

委員：「やしの実から届ける東北の風」とは、優しい言い方ですが、この大災害を風化させないという強い意志が感じられます。震災当時、テレビで見たあの恐ろしい映像は、今でも鮮明に覚えていますが、私は、東北に知り合いや親戚がいないので、どこか他人事として考えてしまいがちです。また、豊橋にはあんな大津波は来ないだろうという油断があることも事実です。こういう番組を通して、自然への畏敬や災害への備えという行動を引き起こすべきと思います。正直あまり面白い番組ではないけれども、とても必要な番組であると思います。阪神淡路や熊本特集もやったらいいのではないでしょうか。

委員：エフエム豊橋に宮城出身のパーソナリティがいたことに驚き、そのパーソナリティの前川さんが実際に宮城へ行き、被災者の方々のインタビューをしてきたことにも驚いた。10 年前とは違う景色、復興のために働く人々、当時の被災された方の恐怖や悲しみなど、思いが消えることはない。しかし、10 年も経つと震災のことを知らない子供たちも生まれている事もあり、震災のことを風化させてはいけないという思いは大切にすべきだと思う。今後も３月１１日には、震災をテーマに短くてもいいので放送してほしい。

委員：番組を拝聴しました。東日本大震災は、10 年経過しようが 20 年経過しようが大きな傷となり癒えることは無いと思います。インタビューは、パーソナリティの明るさとインタビューの声の軽さが気になりました。暗くしろとは言いませんが、どの場面で、どのようなことを聞くかをもう少し詰めると良いと思います。
パーソナリティの前川さんの声は聴きやすいと思います。活躍を期待しています。

委員：東日本大震災発生から 10 年が経過した特別番組ということで、宮城県出身のパーソナリティ：前川緑さんが進行を務められました。地震発生当時、やしの実 FM のスタジオで起きていたこと、そして感じていたこと…故郷を案ずる心境は出身者にしか伝えられない言葉であったと思います。１０年の時を経て被災地へ赴き、現地の方々の当時の思い出や故郷に対する想いを伺えたことはとても貴重であったと感じています。インタビューもよくありがちな役場の職員ではなく、実際に被災された一般の方々を対象としたことにより、ご本人しか知りえない当時のリアルな状況が浮かんできました。自宅や家族の状況、避難所生活など詳細に把握することができました。流れとしては当時の想い、その後、最後に今後の故郷に対する想いへと聴いていて流れがとてもスムースでした。
私自身、10 年前の 4 月末にボランティア活動に伺ったため、非常に興味をもって聴くことができました。当時の状況を知っているからこそ、インタビューを受けている方々が経験した出来事や、これからはこうあり続けたいという希望が手に取るように理解できました。最後の前川さんの締めも非常に良かったと思いました。

委員：・インタビューの意図がよくわからない。
・必要以上に暗く話してほしいわけではないが、震災に合われた当事者の深い悲しみや心の内を同郷ではあるが、本当に受け止めているのかと疑問に思うような話し方であると感じられた。もし原稿を読んでいたからかというなら、逆に当事者に近い方なので、自

分のことばで伝えたらどうかと感じた。
・映像が無いので、もっと状況が浮かぶようなインタビューであってほしかった。（かいつまんだ作りだったのでわからなかったのかもしれませんが）
・番組としてはとても大切なテーマであると思うので、継続して発信していただきたいと思う。
・パーソナリティは、彼女でなくてもよいのかも、なぜなら前川さん自身が、何をどう伝えたいと思っているのか整理できていないように感じる。または思いが強すぎて、全てを伝えたいと思いすぎているのかも。出身にこだわらず、他のパーソナリティの方にかわられることも考えに入れられてはどうでしょうか。

委員：被災者の方から聞く当時の被災状況の話は、臨場感があり、その情景が目に浮かぶようでした。それぞれの方のコメントにはメッセージ性もあり、苦労を乗り越えてきた強さも感じました。被災地域の方へのインタビューで、その方の被害状況を尋ねるのは酷のように感じました。「親戚とかは流されちゃったり結構ありました。」とコメントした方（緑化工事　テルキナさん）の心情を考えると、心が苦しくなりました。 同じ方の「前を向かないとダメなんで、みんな頑張っています。」「明るく元気のいい街に戻ればいい。」というコメントには勇気づけられました。16 分 30 秒ぐらいからのお話にはぐっとくるものがあり、すごく引き込まれました。「祈りましょう。そして花を手向けましょう。願いましょう。天国で笑顔でいてくれることを。
そして私たちを見守ってくれていることを。」という部分は、特に胸が熱くなりました。

委員：震災後 10 年を追いかける追悼番組、仙台出身のパーソナリティの言葉にもリアリティがある。2 時間放送の短縮バージョンなので、十分ではないかもしれないが、それでも巨大地震の脅威、自然災害の前での人間の無力さなどが、インタビューを受ける人達を通じて、日本人が持つ共通した想いと共に伝わってくる。児童クラブの支援員のご婦人が言っていた「亡くなった人たちから、人間として生きていく何かをもらった気がする」という言葉、パーソナリティの「言葉にならない後悔と生き延びた意味を探しながら、毎日の当たり前を噛み締めながら生きている」という言葉が、印象に残った。特に、言葉にならない後悔というところが郷愁を誘う。ここをもう一つ掘り下げ、話を聞けていたなら、さらに良かったと思います。日本人なら決して忘れることのない東北の震災、そうした一切を背負いながら生きている東北の人達の想いや頑張りを風化させないよう、より良い番組づくりを今後もお願いします。

７．審議会の答申などに対してとった処置
　　特になし

８．議事の公示
　　エフエム豊橋にて放送　　ＨＰに掲載